

排水設備清掃業務仕様書

この仕様書は、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則第4条の2」に基づき実施する、上川合同庁舎排水設備の清掃業務について定めるものであり、この仕様書に記載されていない事項であっても現場の状況に応じ、委託料の範囲内で処理するものとする。

1 共通事項

- (1) 業務は北海道の休日（北海道の休日に関する条例（平成元年北海道条例第2号）に規定する休日をいう。）に行うものとする。
- (2) 各作業中は、身分証明書等を常時携帯し、業務担当員等から提示を求められた場合は、身分証明書等を提示すること。
- (3) 各作業は、庁舎及び設備に加工することなく、既存のまま行うものとし、機材の使用等によって床面等を傷めるおそれのある場合は、あらかじめ養生を行うものとする。
- (4) 各作業は、高圧洗浄車及びダンパー車によって行うことを基本とし、これにより難しい場合についてのみ高圧洗浄機及び人力等によって作業を行うものとする。
- (5) 各作業に要する洗浄用補給水、作業用電力、動力用電力は、委託者の負担とする。
- (6) 各作業に必要な機材及び消耗品等は、受託者の負担とする。
- (7) 各作業に要する作業労務費は、受託者の負担とする。
- (8) 特許使用危険負担は、受託者の責任において処理するものとする。
- (9) 除去物質の飛散防止、悪臭発散の防止、消毒等に配慮するとともに、現場の状況、周囲の状況等を確認し、安全の確保に努めること。
- (10) 各作業中において、管等に閉塞があった場合はトーラー等を用いて閉塞を解消すること。
- (11) 清掃により発生した汚泥等の産業廃棄物に当たっては、委託者が指定した産業廃棄物収集運搬及び処分業者が処理するので、業務担当員の指示に従うこと。
- (12) 各項目について、清掃を行うとともに、各設備の点検も同時に行い、不良箇所がある場合は、書面によりその旨を報告するものとする。

2 業務内容

- (1) 雑排水槽、汚水槽及び雨水槽
 - ア 各水槽の清掃作業は、既設のポンプで釜場まで水位を下げた後、行うものとする。
 - イ 水槽内の清掃作業中は、酸素濃度測定器を使用し、作業員の酸欠による事故を防ぐとともに、送風機等を用い清掃終了後まで継続して換気を行うこと。
 - ウ 槽内はメタンガス等が充満している可能性があるため、水槽内に入るときは火気に注意し、照明器具は防爆型を使用すること。
 - エ 洗浄水及び汚物は、ダンパー車に排水する。
 - オ 槽内を高圧洗浄機（車）で洗浄し、汚水を搬出する。
 - カ 槽内を消毒、洗浄する。
 - キ 清掃終了後は水張りを行い、水位の低下の有無を調べ、漏水のないことを確認すること。
- (2) 雑排水、汚水及び雨水排水ポンプ
 - ア 清掃の要領については、各水槽の清掃に準じる。
なお、高圧洗浄機を使用することによって、ポンプを破損するおそれがある場合は、手作業により行うものとする。
 - イ 清掃終了後は、各排水ポンプの点検を行い、正常に作動することを確認すること。
（ナット類の弛み点検を含む）
- (3) グリストラップ
 - ア グリストラップ内を薬剤等を用いて洗浄、消毒し、汚物及び油脂を除去する。
 - イ 洗浄終了後は、蓋等の確認を行い、作業跡について再度洗浄を行うこと。
 - ウ 作業場所が厨房内であることから、衛生面に十分な配慮を行うこと。
- (4) ガソリン、オイルトラップ
 - ア 関連するグレーチングの清掃後、トラップ内の洗浄を行う。
 - イ トラップ内の洗浄を行い、汚物等を搬出する。
 - ウ 洗浄を行うに当たり、必要と認めるときは、薬剤等を使用し、洗浄する。
- (5) ルーフドレン
 - ア 各ドレンに流れ込む部分（屋根）を高圧洗浄機を用いて洗浄してからドレン管の高圧洗浄を行うこと。（車庫棟の屋根については、全面汚泥を取り除くこと。）
 - イ ステンレス製の屋根に機材等を搬入する場合は、傷等をつけないよう十分注意するとともに、機材等を搬入することにより、傷等をつけるおそれのある場合は、ゴムホース等を用い泥等を除去するものとする。
 - ウ 目皿周囲を洗浄し、落ち葉、泥等の付着物を除去する。

- エ 清掃終了後は、正常に排水されることを確認すること。
- (6) 大小便器等（枝管含む）
 - ア 尿石溶解剤を注入し、ハイスパット等を用いて洗浄を行う。
 - イ 清掃終了後は、便器取付部等の漏水等を確認すること。
- (7) 手洗器、洗面器、流し、掃除用流し及び洗濯機パン（枝管含む）
 - ア 管を傷めるおそれのある薬剤は使用しないこと。
 - イ ハイスパット等を用いて洗浄する。
 - ウ 必要に応じてトラップ部を取り外し洗浄を行うものとし、付着物を除去する。
 - エ 清掃終了後は、消毒、消臭を行い、管取付け部の漏水についても確認すること。
 - オ トイレの洗面器（はめ込洗面器）については、原則トラップ部の分解洗浄を行うこととし、状況に応じて管を傷めるおそれのない薬剤を使用すること。また、洗浄終了後は、トラップ接続部を点検し、水漏れがないことを確認すること。
- (8) 内部排水管
 - ア 各フロア、清掃口、排水口より洗浄水を流しながら高圧洗浄を行う。
 - イ ジェット式電動ワイヤーを用いて管内を洗浄する。
 - ウ 清掃終了後は、作業跡の清掃を行うこと。
- (9) 外部排水管
 - ア 下流より上流方向に樹間隔毎に高圧洗浄を行う。
 - イ ほか、作業要領については、内部排水管の清掃に準じる。
- (10) 汚水桝及び雨水桝
 - ア 雨水桝については、関連するグレーチング、排水管の清掃後、作業を行うこと。
 - イ 桝内の沈殿物、付着物、土砂等を桝外に搬出すること。
 - ウ 高圧洗浄機等を用いて桝内を洗浄し、洗浄水についてはダンパー車に排水する。
 - エ 清掃終了後は、消毒、消臭を行うこと。
- (11) ドライエリア
 - ア 作業は雨水槽の清掃後に行うこと。
 - イ 高圧洗浄機等により清掃を行うものとし、洗浄水については、ダンパー車に排水する。
- (12) 犬繫留所
 - ア 高圧洗浄機等により清掃を行うものとする。
 - イ 皿の付着物等は完全に除去するものとし、清掃終了後は正常に排水されることを確認すること。
- (13) 靴洗場
 - ア 沈殿物等を除去し、洗い場内を洗浄する。
 - イ 洗浄水及び汚物は、ダンパー車に排水する。

3 実施時期

- (1) 定期清掃
 - ア 6ヶ月清掃
 - 2に掲げる項目中、雨水槽、雨水排水ポンプ、雨水桝、排水管（雨水）、ガソリン・オイルトラップ、ドライエリア及び犬繫留所を除く範囲について実施するものとし、実施時期は、原則として5月とする。
 - イ 1年清掃
 - 2に掲げる全項目について実施するものとし、実施時期は原則として10月とする。
- (2) 臨時清掃
 - 委託者の依頼に基づく清掃であり、委託期間中において、洗面器、便器、靴洗場等の排水管の閉塞等があった場合、これを解消するための作業を行うこと。
 - （トイレの洗面器（はめ込み洗面器）については、定期清掃と同様にトラップ部の分解洗浄を行うこと。）

4 その他

- (1) 作業の実施の当たっては、あらかじめ業務行程表及び作業員一覧表を作成し、業務担当員に提出してその確認を受けるものとする。
- (2) 各作業行程について、作業前、作業中、作業後の写真を撮るものとし、業務完了後、業務完了届とともに提出するものとする。
- (3) 受託者は業務の実施に当たり、次の機材等を用意するものとする。
 - 高圧洗浄車、ダンパー車、ハイスパット、送風（換気）機、酸素濃度測定器、消毒剤散布機、その他作業に必要な機材なお、名称が違っていても同じ効果を生むものは、これらの機材とみなすことができるものとする。
- (4) その他業務に関し疑義が生じた場合は、業務担当員と協議をすること。